

都道府県ニュース

What's happening in your district

■ 関東PL大会 & 全日本教職員 PL&BP大会

東京都 PL 協会

物江 毅

11月3日千葉県市原市ゼットエー武道館で開催された関東PL大会&全日本教職員PL&BP大会、とても良い雰囲気の中で試合は進行し、私は第一面の陪審員を勤めました。当日は三連休の初日でしたので、首都高の渋滞が予想されました。そのため、千葉協会・加藤事務局長からMCを依頼されている松永浩二君と錦糸町で7:00に待ち合わせ出発、結果的にさほどひどい渋滞もなく、8:15に会場に到着しました。会場には既にパワーリフティング全日本教職員ネットワーク代表幹事・中谷幸市氏が着いておられました。なんでも西東京市のご自宅を5:30に出発、7:30に到着したとのことでした。

ゼットエー武道館に入ると、千葉協会の役員の方々の方が会場設営中、しばらくするとJPA宮本会長、小森正昭関東連盟ブロック理事長も来場されました。

松永君と私はラック高チェックを担当、出場選手と和やかに会話しながら、開会式を迎えました。今回は68名がエントリー、二面開催です。いずれもIPF認定品ブルラック及びプラットフォームで、前週のJCBP大会同様国際水準の試合コートで試技が開始されました。各コート審判団は二グループでしたが、陪審員は各々3名しかおらず、交代で食事を摂った以外は試合コートに張り付き、殆ど第一面のレポートとなりますが、ご容赦下さい。



Aグループ 全日本教職員PL大会女子Nの部&関東PL大会女子N&Fの部

女子47kg級Fに出場した浜田華澄選手(厚木商業高校)は検量体重42kg台で、8月の全日本高校PL大会でも、その強さが目立っていましたが、K's GYM横浜のセコンド陣から盛んな声援を浴びてSQで112.5kgのSJR43kg記録を樹立、BP&DLは第一試技55kg、100kgのみの成功でしたが、TL260kgで優勝しました。

今大会女子選手最年長・57kg級Fに出場したM3の大ベテラン大森聖子選手(小田原アリーナ)はSQ90kg、BP77.5kgではM3日本記録を樹立、DLも117.5kgを引きTL277.5kgで同級優勝、健在ぶりをアピールしました。

K's GYM横浜に移籍した鍋倉由美子選手は72kg級Fに出場。鍋倉さんもM2ながら強さは健在で、SQ110kg BP67.5kg DL132.5kg TL305kgの本日女子最重量TLで優勝しました。

教職員大会定連の田中彰子選手(姫路市立広畑小学校)も57kg級Nに出場、SQのしやがみにやや苦戦しましたが、SQ75kg BP52.5kg DL85kg TL212.5kgで優勝です。

この他には関東PL大会52kg級で優勝した東京の佐藤佳奈選手(個人)は、SQ80kg BP50kg DLは三試技とも成功の130kg TL260kgで将来性を感じました。



Cグループ 全日本教職員PL大会N&F及びシングルBPの部

何といてもPL59kgFに出場した水野貴章選手(富里市立富里中学)の強さが際立っていました。SQ220kg BPはM2日本記録の185kg DL220kgでTL625kgのM2日本記録を樹立しました。この記録全日本PL大会一般クラスでも表彰台に登れるのではないのでしょうか。

83kg級Nでは、カレンダーイヤー23歳の新鋭・堀匠毅選手(津市立南郷小学校)がDLで強さを発揮してTL487.5kgで優勝しました。このクラス2位には大会定連の保井俊一郎選手(都立五日市高校)が九試技全部成功TL435kgで入りました。保井さんはウエイトリフティングでも選手として活躍しておられます。

66kg級Nを制したのは宮下直幸選手(豊橋市立高師台中学校)がTL375kgで優勝、74kg級Nでは有賀浩二選手(横浜市立六ッ川中学校)がTL427.5kgで優勝、105kg級Fでは、竹田知弘選手(葉山町立葉山中学校)がTL530kgで優勝しました。

今回初めて開催されたシングルBP大会は4名が出場しました。66kg級Nでは都大会定連の鈴木康太選手(江東区立有明小学校)が145kg、83kg級Nで山田賢選手(松本市立寿小学校)が145kg、93kg級Nではこちらも都大会定連の佐野修選手(都立足立新田高校)が155kgでそれぞれ優勝しました。

Eグループ 関東PL大会男子Fの部



66kg級で優勝したカレンダーイヤー20歳の村田元輝選手(K's GYM横浜)はSQ210kg BP185kg DL210kgで優勝しましたが、村田君の記録を見ても上述の水野さんの強さが感じられますね。

74kg級を制したのはカレンダーイヤー22歳、本年リトアニアで開催された世界BP大会優勝の菊地

都道府県ニュース

What's happening in your district

都道府県ニュース

What's happening in your district

洋介選手 (K's GYM横浜)、得意の BP では第二試技 230kg の JR 日本新に成功し、第三試技では一般の新記録となる 240.5kg に挑む元気さでした。TL は 610kg、やはり三種目の中で BP が一番高記録でした。安定したその BP 試技は現在日本 JR 最強ともいえるのではないでしょうか！

93kg 級では目黒英一選手 (パワーハウスつくば) が TL680kg で優勝しました。

105kg 級を制した飯島玄洋選手 (山梨・個人) は、久しぶりの公式戦出場でしたが、その強さは健在で SQ292.5kg BP はやや振るわず 165kg でしたが、DL で 277.5kg の M2 日本記録に成功し、TL は 735kg でした。



隣の面の試合はほとんど見られませんでした。83kg 級 N に出場した横田正敏選手 (TXP) は、ジムの同僚の大坊さん、糸井さん、池上さんのセコンド陣のサポートを受け、SQ230kg BP162.5kg DL260kg TL652.5kg で優勝しました。故障から回復途上ですが、SQ が以前の強さに戻れば、680kg 程度の TL が見込めると思います。とても腰が低く誰からも好感を持たれている横田君、次回は沖縄のジャパンクラシック PL 大会に参戦です！

今大会は、早朝から主管の千葉協会の皆さんが事務局長の加藤さんご夫妻を中心に会場設営されました。試合進行も滞りなく遂行され、ほぼ予定通りのスケジュールで終了しました。

また、このところ参加人数が少なかった全日本教職員大会も 16 名の出場でした。

来年は山梨で開催される当該大会、今回同様の盛り上がりを目指したいと思います！！

■ 2017 年秋季東京都 PL&BP 大会 東京都パワーリフティング協会 技術委員会 物江 毅



本年の10月は例年になく秋雨前線が停滞し、秋季東京都 PL&BP 大会が開催された駒沢屋内球技場も10月14日(土)は驟雨であった。

当該施設はあの灼熱の2010年全日本 PL 大会を始めとして、TPA 主催の公式戦にたびたび使用してきたが、3年前から老朽化建替えをしていた。本年7月に完成記念内覧会にお伺いしたが、国際大会も開催可能な素晴らしいアリーナに生まれ変わっていた。

そのため、今大会は選手や関係者の注目度が高く、PLの部の後半戦が開始された16時頃にはアリーナ内に300名を超す観客で溢れ、過去最高の盛り上がりとなった。

PLの部前半

女子の部は13人エントリー、11名出場。女子だけで1グループ構成となった。

その中で目立ったリフターは3名、一般47kg級Nを制した浦川悠子選手、一般52kg級Nの中野菜選手、一般63kg級N前野由依選手のベストリフター争いとなったが、体重46.52kgでTL270kgを記録した浦川さんがFP365.81で争いを制した。2位は前野選手、得意のDL第二、三試技160kgで失敗したのが悔やまれる。3位は中野選手、SQ100kg BP60kg TL275kgは東京新記録であった。



た。

M2 52kg 級Nに出場した松井陽子選手(パワーハウス)はボディービル大会出場直後であったが、BP50kg DL107.5kg TL222.5kgの三種目の東京新記録樹立と健闘した。

とても感じの良い選手宣誓をして下さった一般52kg級N田中亜弥選手はタレント&シンガーソングライターの異色リフターであるが、TL255kgと頑張り同級

都道府県ニュース

What's happening in your district

都道府県ニュース

What's happening in your district

2位となった。

一般男子 59kg級Nに出場した竹花真人選手(パワーハウス)はフルギアリフターのイメージが強いが、ノーギアも強く9試技全部成功、DL202.5kg TL512.5kgは東京新記録で圧勝した。

一般男子 66kg級Nではジャパンクラシック上位入賞クラスの3名の選手が揃い熱戦が展開された。制したのはDLが強い池上宏樹選手(TXP)、8試技成功、SQ210kg DL245kg TL592.5kgでベストリフターも獲得、ちなみにF.Pは愛媛国体のベストリフター上回った。2位は国体で苦杯をなめた木村琢磨選手、サブTLは352.5kgで池上君に5kg差をつけていたが、DLで逆転を許した。ただ、国体の一か月後&再起第一戦ということを考慮すれば、まずまずの結果といえるのではないかと。3位は上田孝道選手(スパインハウス)で、6試技成功TL540kgという結果であった。

同級M2 Nには、都大会定連の赤坂義昭選手(チームC&M)が出場、DL180kg TL440kgの東京新記録を樹立する元気であった。

一般74kg級Nに出場した宇都木悠選手(TXP)は、SQ220kg BP150kgの東京都JR新、DL250kg DL620kgは一般の東京新記録で堂々優勝、2位に45kg差の圧勝であった。

BPの部

今大会、当初PLとBPを合計した参加者を130名程度に、PLの部出場者を60名限定とする旨、TPAH.Pで発表したところ、PLの部Web申込が殺到し、あっという間に60名を超えたため、全体参加者の130名枠は変更せず、PLの出場希望者を継続して受け付けたところ98名というこの10年間でも最多のPLエントリーとなった。そのためBPの部には37名のエントリーと、例年の半分以下の人数となった。

そんな中、女子では東京協会所属最年長の志塚園子選手(チームC&M)が、80歳記念に久しぶりに競技復帰して下さった。M5 52kg級N部門で見事に35-40-45と東京新記録を三連発健在ぶりを見せつけて下さった。志塚さんには、チームメイトのチームC&Mのメンバーにとどまらず、会場中から盛大な拍手&賞賛が送られた。どうかこれからも体調が続く限り、TPA主催の大会にご出場いただきたい。

BP女子の部最年少はカレンダーイヤー22歳、JR47kg級Nに出場した都大会定連の川上茉祐選手。お父さんの京司さんのサポートを受け、第三試技ではご自身の東京記録を更新すべく55.5kgに挑戦した。惜しくも失敗試技であったが、確実に力をつけているという印象である。

女子の部のベストリフターは63kg級Nに出場した村井好美選手(パワーハウス)で第二試技67.5kgに成功後、第





三試技で東京新記録となる 70.5kgに挑むも、惜しくも失敗であった。

男子の部でも、ベテランが活躍した。83kg級 M4 に出場した津野田克彦選手は第一試技から東京新となる 110kgを軽く成功させ、115-120 と三試技とも楽勝であった。実は津野田さんと私は千代田体育館で一緒にトレした仲間である。60代前半の時には今よりも強かったが、公式戦にはあまり出場しておられなかった。今回カレンダーイヤー 70歳の M4 となったため、東京記録更新を狙って TPA が主催する公式戦には初出場という事になった。本年の JCBP 大会には間に合わないが、来年度の同大会に是非とも出場され 2019 年日本開催の世界 BP 大会に是非ともご出場いただきたい。

83kg級一般 N に出場した吉田幸隆選手 (サンプルイ) で、翌日関東 BP 大会に出場のため、第二試技 175kgに成功後、第三試技はパスしたが、圧勝であった。

男子のベストリフターは 105kg級一般 F に出場した杉本洋介選手 (パワーハウス) で、205kgに成功、和歌山の全日本 BP 大会の出場権を得た。

オープン参加であったが、速太郎道場オーナー小早川渉選手が 93kg級 F に出場、215kgの今大会最重量に成功した。

PL の部後半

JR83kg級 N には 6 名が出場。レベルもなかなか高く、優勝した伊藤雄哲選手は DL で 300kg近く引く力があるという事で、DL 第一試技 250kg成功後、第二、三試技で 280kgに挑み、惜しくも失敗であったが TL570kg、BP(135kg) DL TL とも JR 東京新であった。同級 2 位の石田典大選手 (東京理科大) は SQ225kgの JR 東京新記録に成功した。

同級一般 N にオープン参加した埼玉協会所属の伊勢崎勝史選手は SQ245kg BP170kg DL270kg TL685kgと全日本クラス上位入賞の力を披露してくれた。



都道府県ニュース

What's happening in your district

都道府県ニュース

What's happening in your district

サブ JR93kg 級N ではシルバ英樹選手が健闘、SQ215kg BP112.5kg DL240kg TL567.5kgのサブ JR 東京新 (DL は JR 新) であった。DL 第三試技では一般の東京記録となる 260.5kgに挑んで見せてくれた。

一般 93kg級N では 83kg級から階級を上げた BP 得意の信田泰宏選手と久保匡平選手のガチンコ対決が予想された。ただ、久保君に試合前話を伺ったが JCPL 大会の標準突破が目的との事であったので、あまり無理はしなかったようである。

SQ は 260kgで信田、久保両選手とも同重量、BP 得意の信田選手が 200kgに成功し、サブ TL で 55kg差がついた時点で勝負が見えたという印象であった。結局信田選手が 717.5kgで優勝、2 位久保選手 645kg、3 位には TL620kg で栗原弘教選手という結果であった。

一般 105kg級 N では軍司和貴選手が強く DL 第三試技で 255kgに成功 TL652.5kgで優勝。同級 2 位の荒川龍一選手は DL のフォームをワイドスタンスに変えたとの事で DL230kg、TL610kgであった。

一般 120kg級 N では TPA 最年少理事・間嶋秀伍選手が BP167.5kg DL272.5kg TL695kgのいずれも東京新記録で優勝。SQ 第二試技で 285kgに成功し、第三試技では 300kgに挑む見せ場を作ってくれた岩波吾猛選手が TL675kg で 2 位という結果であった。

+120kg級はベテランの大方健選手 (TXP) が SQ210kg BP155kg D L 230kg T L 595kgのいずれも M 1 東京新記録で優勝という結果であった。

団体戦

女子優勝 パワーハウス 2位 Team Raws

男子優勝 スパインハウス 2位 パワーハウス 3位 TXP (順位は1位の数差)

4位 チームC&M 5位 サンプルイ 6位 Team Raws 7位ノーリミッツ

初めにも触れたが、新装なった駒沢屋内球技場は本当に素晴らしいアリーナであったが、初使用であったため、設備の設置時間が読めず、アリーナ内約半分に会場備え付けのロールシートを敷き詰めたが、設置&撤収で各々 1.5 時間ほどかかってしまい、貴重な大会時間の浪費となった。次回来春の大会では、ブルーシート敷き詰めに対応するつもりである。

来春の大会は PL 単独大会として、福井国体の東京都予選も兼ね 4 月 1 日に駒沢屋内球技場で開催予定である。今大回同様大勢の選手のエントリーを期待したい！！

